

らり 中山千夏 Nakayama Chizuru らんかぶ

33 完黙の似合う男 ではあるのだが

「皆様に大変ご心配をおかけしましたが、11月24日、やっと、保釈になりました。」という書き出しの、村木厚子「元厚労省局長から支援者への手紙が、ネットで公開されている(www.yuki-enishi.com/「ゆきえにしネット」)。「メディアの部屋」に調べてみたら、彼女の長期勾留に私がいちやもんつけたのは、二六回目の当コラム。逮捕から五カ月以上も捕らわれていたことになる。その手紙を読んで、友人の福祉関係者に彼女のファンが多いのが、わかる気がした。丁寧で礼を失することのない挨拶文でありながら、温かみがしっかり伝わってくる。ゆとりとユーモアもある。

〔拘置所での生活を数字などで総括してみますと、次のようになります。〕

・面会に来て下さった方…約70人

週刊金曜日 2009.12.11 (779号)

30

・頂いた手紙…約500通
・麦飯ダイエットの効果(?)で体重…6キロマイナス
・ストレッチと室内体操のおかげで腕の筋力…アップ
・歩き回れなかったため、足の筋力…ダウン
・差し入れていただいた本を中心に読んだ本…ちよと150冊

この調子なら、苦難にめげず裁判も堂々と戦っていきけるだろう。

とひとまずこちらは安心できたが、実は別件で、もうひとつ気にかかる長期勾留がある。なんの因縁なのか、これも福祉と無関係ではない。そして秋田以外のひとたちには、村木事件以上に知られていないだろう。

よいことと名が出ると「友人」、悪いことと名が出ると「知人」、その程度の交遊関係があるものだ。元秋田県鷹巣町長、岩川徹と私とは、その程度の知り合いである。が、しかし、今こそあえて友人と呼ぶ。一九九一年、町長になった彼は「福祉の街づくり」政策の成果によって、関係者の間では全国的に知られていた。それだけに上建優先の風土では、敵も多かった。二〇〇三年、市町村合併の是非をかけた町長選挙では、全国人気とは裏腹に、合併推進派の自公候補に大敗した。その浪人時代に偶然、会った。「敵」は手段を選ばなかった、「とにかく岩川憎し、鷹巣憎しなんだ。その憎しみたるやすこい

週刊金曜日 2009.12.11 (779号)

31

話の特集 金丸 博成 矢崎 泰久

もんで、市町村合併したら、鷹巣という町をなくしてしまったんだからね」と悔しそうに言っていた。合併してできた北秋田市の初代市長には、その「敵」が就任した。

以来、会っていない。二〇〇九年四月、北秋田市の市長選に立候補した、と知ったのは岩川からの葉書だったと思う。落選は報道で知った。そして三カ月後、七月二三日、新聞の一面に彼の写真を見て、びっくりたまげることになる。選挙違反で逮捕されたというのだ。うううむ、積極的に不正をするとは思えないけど、きかんきの鉄砲玉みたいな男だからなあ、腸甘く攻めすぎたところを、敵にひっかけられたのかしらん、などと思っっているうちに日が過ぎた。

同時に逮捕された運転手が自白し、起訴され、一審有罪。だが、その後一転して、自白は早く出たがためのウソ、以後は無罪で戦う、と記者会見。岩川徹は捜査段階から黙秘を貫き、勾留され続けている。そんな次第を知ったのは、先月のことだった。村木の場合と同じで、ちよと調べてみると、容疑そのものが限りなくあやふやだ。検察が敵陣営に与した匂いが濃厚にある。それとも彼ら、福祉で人気のある役人や町長が嫌いなのか？

一月三〇日現在、我が友人、岩川徹は、完黙のまま、家族との面会も許されず、勾留され続けている。

週刊金曜日 2009.12.11 (779号)

32